



TWEET

私が母親になって

娘は人より一回り小さく産まれました。正直実感がなくて隣で寝ている赤ちゃんを見て“可愛い”とかじゃなくてただ、“この子だけは守っていかないと”思って育てていました。何もかもが初めてで必死に子育てをしていたと思います。だから、娘の新生児の頃の写真はほぼないです。写真を撮る余裕もなかったんだと思います。そんな神経質な気持ちが娘に伝わり、外出先ではおっぱいを飲んでくれなくなりしばらくの間、ほとんどお出かけもできませんでした。

和歌山は地元ではないので毎日昼間は2人で過ごしていました。そんなときぐるんぱに出会いました。最初の頃は、私のそばから離れられず泣いて帰る日もありました。おもちゃで遊んでいても友達が来ると取られる前に自分から手を離し逃げていました。そんな娘を見ていてこの子は自己主張のできない子になるんじゃないかと不安に思っていました。だけどそれは私が娘に張り付いて、娘が人のものを取ろうとしたときに『ダメよ』とか『貸しなさい』と言っていたからでした。娘にはちゃんと育てて欲しくてしつけのつもりで、いい子に育てて欲しいと押し付けていたのかもしれない。

それがよくないと気付かせてくれたのはぐるんぱにいるスタッフやママたちでした。とにかくわたしの話を聞いてくれて、否定せずに共感してくれてアドバイスをくれました。そして話しているうちに自分の子育てについて客観的に考えるきっかけになりました。それは、自分が育ってきた環境でした。母親に対しての反面教師、自分みたいになってほしくない、きちんとした人間になってほしいという思いからでした。だけど、そんな思いが娘の世界を狭めて閉じ込めていたのかもしれない。わたし自身の考え方を変えたら娘はすごく変わりました。友達と取り合いまでできるようになりました。

そして下の息子に関してはまったく心配のいらないくらいのびのびとぐるんぱで遊んでいます。まだ小さいので最初は不安でしたが、離れて見てたらすごく上手に遊ぶんです。ああ、これくらいいいんだなあ、子どもってすごいなあって思います。

私はぐるんぱでは本当に色々なことを学びました。今でも失敗もします。悩みもあります。子供を叱りすぎてしまうこともあります。でもそんなことを誰かが聞いてくれます。『私もそう』と共感してくれたり、『だめだよ』って言うママもいます。スタッフのみなさんも、とにかく話を聞いてくれます。うちの娘のように、他の子どもたちも成長していくのを見るのも楽しいです。

そして一番嬉しいのは、うちの娘と遊べて嬉しいと言ってくれる人がいることです。ぐるんぱと出会えて感謝しています。

小田 暁

このコーナーはぐるんぱママの「つぶやき」を随時掲載します。お楽しみに！投稿も大歓迎です！